



< 新 気になるよそ様の数値 - 自己資本比率 (X6) - >

今回は自己資本比率(X6)です。この指標は、財務健全性に属する指標で、計算式は以下の通りです。

$$\text{自己資本比率(X6)} = \text{自己資本} / \text{総資本} \times 100$$

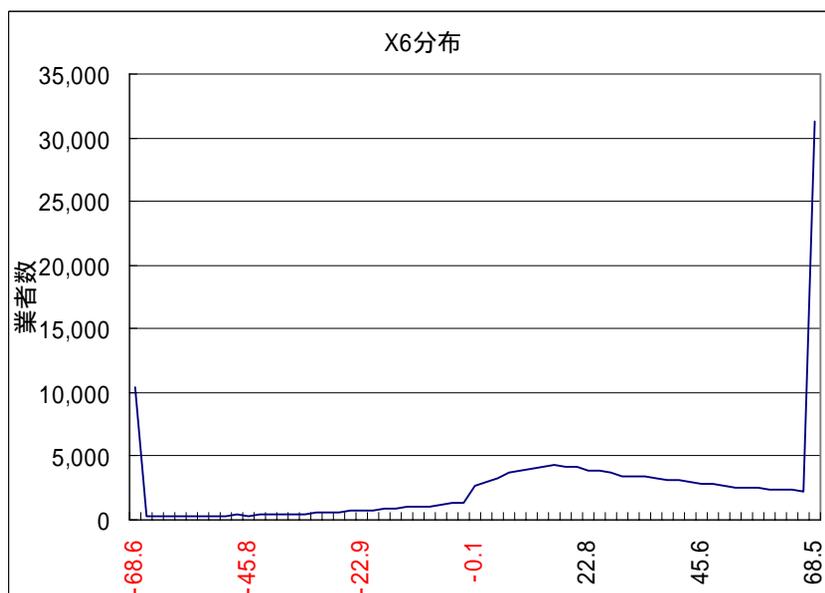
この指標は、自己資本が総資本（貸借対照表の負債純資産合計）に占める割合を示す指標です。企業の運営は、他人資本（負債）に頼らず自己資本で運営の方がよいので、この比率は高いほどよいこととなります。

上限値は68.5%で、下限値は-68.6%です。Y点への寄与度は14.6%と高くなっています。

財務健全性指標である自己資本対固定資産比率(X5)と自己資本比率(X6)は、両指標とも旧経審から引き続き採用されていますので、経営状況を判断する上では重要な指標であると推測されます。

下のグラフは、自己資本比率(X6)の分布図です。財務内容は二極化していますが、上限の点数を獲得している会社が多いという特徴があります。2009年10月時点では、156,978社中、31,211社およそ19.9%が最高点になっています。（2000年11月では、最高点（68.4%）の会社は、13.0%）建設会社は、公共工事を獲得するために自己資本を増強することに熱心で、その結果、強固な財務基盤ができたと思われる。

< 自己資本比率(X6)の分布図 平成21年10月31日 156,978社 >



しかし、下の表で分かるように、過去の数値と比較すると平均点の比率が下がっています。長い不況の影響で自己資本を減らしている会社も多いからだと考えられます。完成工事高別平均点を見ても、特に完工高1億円未満の会社で自己資本比率が低くなっている現状がうかがえます。

	2000年11月	2002年9月	2010年4月
自己資本比率	27.290%	27.157%	24.640%

< 完成工事高別平均点 自己資本比率(X6) 167,696社 >

完成工事高	平成22年4月16日現在
全体	24.640 %
100億以上	32.502 %
50億以上	33.606 %
20億以上50億未満	34.378 %
10億以上20億未満	35.623 %
5億以上10億未満	35.475 %
1億以上5億未満	30.424 %
0.5億以上1億未満	20.044 %
0.5億未満	16.954 %

データは公表されたものを集計したものです。

したがって、この低迷する経済環境においては、負債を減らすことにより、総資本を減少させながら、この比率を上げていく方法が現実的です。

ところが、7月の中央建設業審議会で示された経審の改正案では、「建設機械の保有状況」が社会性等(W)で加点項目になるようです。自己資本が小さい会社が建設機械を取得するには、借入金に頼るしかありません。何に投資し何を削るかをしっかりと考え、漫然とした投資をしないようにしましょう。

WISENET編集部 松村 清(税理士)

送信先宛名変更(右欄に変更後の宛名をご記入ください)
今後「Wise FAXNET」送信不要
FAX送信はこちらまで **0269-65-4745**

資料・デモをご希望の方は、下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名とご担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名

TEL

FAX